

大西洋奴隷貿易廃止200周年記念

国際記念日にて、ユネスコ事務局長松浦晃一郎からのメッセージ

「歴史を通じ、奴隷制と奴隷貿易は多くの社会でさまざまなかたちで存在してきました。その年月の長さ、範囲 **scope**、ことの重大さ/成り行き **consequences** をかんがみ、大西洋奴隷貿易は人類の歴史の中で最も悲劇的なできごとのひとつだと広く認識されています。主要な **leading** 専門家によれば、16世紀から19世紀のあいだに、1000万人以上のアフリカの人々が強制的にアメリカ大陸に連れてこられ、そのためにアフリカ大陸からは最も貴重な人材が奪われ、彼らはヨーロッパやアメリカ大陸の国々の経済のために酷使される一方で、アフリカの発展の権利が奪われました。最近の研究によれば、奴隷たちが捕らわれ、様々な場所に送られ、置いていかれる間、たくさんのアフリカ人たちがその状況に断固として抵抗し、あらゆる手段を用いて尊厳と自由のために戦い、なかにはそのために自殺をする人もいたといえます。

奴隷制度が道徳上受け入れられないものであると考えた、**William Wilberforce**、**Ignatius Sancho**や**Olaudah Equiano**などの先進的なアフリカ系イギリス人の人道主義 **humanitarian** 活動家と奴隷制度廃止論者は、奴隷貿易の恐ろしさを徹底的に非難しました。彼らの活動により、1807年、大英帝国全土にて奴隷制度廃止という道が拓かれ、他の多くの国々も19世紀にはこの例になりました。

すべての人々と文化の尊厳、平等、相互尊重 **mutual respect** の原則を掲げ、ユネスコは、ハイチや他のアフリカ諸国の主導 **initiative** により、奴隷の道プロジェクト **the slave route project** を1994年に立ち上げました。それは、『沈黙を打ち破り』、かつてない大規模な残虐行為に光を当てるだけでなく、寛容の文化とすべての人々の平和な共存を広めるために行われたのです。

このユネスコの奴隷の道プロジェクトのような活動によって、この問題に対する世界の関心が高まり、その結果、2001年に南アフリカで開催された『人種主義、人種差別、外国人排斥および関連のある不寛容に反対するダーバン世界会議』では、奴隷貿易と奴隷制は『人道に対する罪』と位置付けられました。

それから3年後、ユネスコの主導により、国連総会は、最初の黒人国家ハイチの独立200周年とあわせ、2004年を『奴隷制に対する戦いと奴隷制度廃止の国際記念年』と指定しました。この国際年は数多くのユネスコ加盟国によって祝われ、科学的研究、生きた記憶 **living memory**、出会いと対話 **encounters and dialogue** という3つのプライオリティエリア **priority areas** に関連した、非常に広範な教育的・文化的活動、イベントが世界各地で行われました。

英国議会による、大英帝国全土における奴隷貿易廃止条約法の署名200周年への国をあげてのお祝いにあわせ、国連総会は2007年3月25日を『大西洋奴隷貿易廃止200周年国際記念年』と宣言しました。この決議は、長く隠れたままとなっていた、あるいは気づかれずにいた悲劇を記憶し、人類の意識 **human conscience** のなかのしかるべきところに置く共同の義務 **collective duty** を持つという国連の意欲 **commitment** を改めて明示しました。これは、奴隷制度の嘆かわしい遺産である人種差別、不寛容と外国人排斥をなくするという国際社会の決意をも反映するものです。これらは、未だにわたしたちの社会の多くに存在し、武力紛争や強制移住を含む、多くの内戦や国際的紛争の原因になっていると考えられます。

これらの目的に沿って、ユネスコ奴隷の道プロジェクトでは、研究所、大学およびユネスコ協同学校において、この恥ずべき **shameful** 人類の歴史のなかの一章の原因と流れ、そしてその世界の地理、経済と文化に永続的に刻み込まれた影響について、学習・研究を奨励しています。また、奴隷の道プロジェクトでは、未来の世代に奴隷貿易と奴隷制の歴史的影響を繰り返し教えていくと同時に、現代に存在するあらゆる人種主義、差別、不寛容を明らかにし、その非を訴えるための教育教材およびプログラムの開発を呼びかけています。大西洋奴隷貿易教育計画 **Transatlantic Slave Trade Education Project** というユネスコのプロジェクトがこの枠組みのなかで行われています。

また、歴史的遺跡や記憶のための場の設立と促進をしようという行動を通じ、奴隷の道プロジェクトは、世界中で、奴隷の子孫だというアイデンティティの強化に加え、文化観光 **cultural tourism** と持続的開発のための新たな機会をひらくような記憶の道程 **itineraries of memory** を打ち立てることを目的としています。これまで、10以上の奴隷制度にとって重要な場所がユネスコ世界遺産リストに登録されています。他の場所も今後この名声のあるリスト **prestigious list** に登録されることが期待されています。

奴隷の道プロジェクトのもう一つのプライオリティ **priority** は、アフリカの人々とそのディアスポラの有形・無形の遺産のための奴隷博物館の創設です。これらは、より多くの人々の奴隷制への関心を高め、それに関する問題の議論のフォーラムとしての機能を果たすでしょう。しかしながら、遺物や資料の不足と離散がこの悲劇に関する情報の普及のための大きな障害となっています。現存する資料のほとんどがヨーロッパや北米の博物館や資料館に保管されており、アフリカやカリブ海の奴隷博物館の展示ケースはがらがらのままです。このような状況への対応策として、ユネスコは、これらのかけがえのない遺物へのアクセスを容易にし、先進国・途上国の関連機関や研究者に、この分野におけるコレクション、経験、専門的知識の共有を促進することを提唱しました。UNESCO has launched a series of initiatives...

この歴史の悲劇的な一章について、分析し、理解し、知識を広めることで、わたしたちはあらゆる差別や人種主義に対抗する態勢を整えることができ、また、多様性、社会的連帯 **social cohesion** と平和の勝利 **peace triumph** を尊重する、持続可能な未来をつくっていくことができる、ユネスコは確信しています。」

松浦晃一郎